

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
<b>I. 理念に基づく運営</b>	<b>22</b>
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>	<b>10</b>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>	<b>17</b>
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>	<b>38</b>
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
<b>V. サービスの成果に関する項目</b>	<b>13</b>
<b>合計</b>	<b>100</b>

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	有限会社コスモ グループホーム東大阪
所在地 (県・市町村名)	大阪府東大阪市中野1丁目19番25号
記入者名 (管理者)	米倉 勉
記入日	平成 21年 7月 23日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(理念: 1. 明るく楽しい家庭的な環境 2. 安心、快適、尊厳のある生活 3. 入居者に応じた自立を支援 4. 自分が自分らしくある為に地域の懸け橋となる開かれた施設) 重要事項説明書にも記載されている通り、当施設の特性、地域での役割、そして事業、介護において基本的な支援の考え(初心)を理念の柱とする。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営方針、理念を職員の目の触れるところに掲示し、ミーティング等でも理解と実践について話し合い、日々意識をもってサービスの向上に取り組んでいる。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	来所時に家族や地域の人々が、運営方針、理念をすぐに目に留まる場所に掲示し、又面会なども促し、疑問や要望に職員皆が答えられるように取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日頃の挨拶は勿論の事、行事の参加の呼びかけ、地域での清掃活動などで関わりをもち、ホームの菜園を手伝ってもらえるような付き合いがある。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣施設で開催している夏祭りや秋祭りに参加している。又、自治会の子供たちを施設のクリスマス会に招待したり、地域のボランティアに慰問に来てもらうなど地域との交流に努めている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	他施設の事業所と情報提供するなど協力を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	自己評価により、日々のケアを振り返る事や違った角度から問題意識を持てるようになった。又、第三者による評価を受け、前回出来ていなかった事(救急救命等の講習の受講)を改善できた。		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	継続して概ね2か月に1回会議を開催し、民生委員、自治会長、地域包括主任ケアマネが主に参加している。運営に関する事を含め、施設であった出来事などをその都度報告し、意見を得られるようになってきている。今後、委員の参加メンバーの充実を図りたい。		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	市役所を訪れ、市担当者へ報告、相談を行っている。前回同様、運営推進会議に市の職員の参加が得られず、今後何らかの形で深く連携が取れるよう働きかけていく。		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	活用機会を模索していたが、事がスムーズに運ばず。今後、再度必要な制度を活用し、入居者の支援に繋げて行く。		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	職員全員が法令に対して理解を持ち、ホーム内外においても法令遵守を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>本人や家族等にサービス内容や責任者、担当者の説明、利用料金、契約内容等を管理者又は、営業担当者から理解が得られるまで、説明を行っている。特に入居の際に「自立支援」及び「あなたらしい暮らし・生き方」を実現するため手伝うという旨を伝えている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>管理者が利用者からの意見、苦情等を聞けるようフロアを回り1人1人に話しかけている。又、1階事務所にて随時苦情の窓口となり、即時対応を行っている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>随時、入居者に状態変化があった場合や金銭に関する事を家族へ電話連絡を行っている。又、施設だより「ほのぼの」を発行し、行事等の連絡や職員の異動は、適宜書面にて報告をしている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>管理者、職員は日頃から家族との信頼関係を築く努力をし、意見、苦情、不満を前向きに受け止めている。又、ご意見箱を設置すると共に、運営推進会議の場において、意見、苦情等を議題に取り上げ、迅速に対応し、よりよい運営が出来るよう図っている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>申し送りや毎月の会議の場で、出来る限り多くの職員が参加、発言できる機会を設け話し合いを行っている。又、個人面談において個々の苦情や不満を聞き、業務に反映させている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>定例会議等で話し合い、雇用形態を一部変更した事で、各ユニット(個人)に合わせた柔軟なケアを実践している。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>勤務態度や出勤日数等により、個々の評価を行い手当等の待遇による努力や、柔軟な雇用形態により、やりがいをもてる働きやすい環境作りに取り組んでいる。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>年間研修計画を立て、ホーム内外の研修を積極的に受けている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域の研修や他施設への現場研修を行い、お互いの情報交換となり、サービスの質の向上に取り組んでいる。又、電子メールにて書式等の情報交換も行っている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>日常的に職員の心身状態や職員同士の人間関係を把握し、個人の能力を見極め、業務時間やシフトなど個人の希望を出来る限り把握し、ストレス軽減に取り組んでいる。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>提案、意見は否定する事無く積極的に取り入れ実践し、結果だけを求めず、過程を重視し評価している。勤務態度等も人事考課にて細かく評価し対価報酬を付けて、意識向上を図っている。</p>	
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居までに不安を少しでも取り除く為、自宅を訪問し落ち着いて相談を受けられるよう努めている。</p>	<p>○ 入居までに自宅等を何度も訪問し、早く職員が顔を覚えてもら事で、スムーズな入所ができ、入所後の不安の表出を軽減できるケアを行う。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>見学や面接を可能な限り希望に添えるよう配慮し、納得するまで、何度も話し合いの場を持ち、不安の軽減に努めている。又、電話での相談を随時受け付け疑問等に答えている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者本人(家族)にグループホームのサービスをよく理解してもらった上で、他の入居者との関係性も含め、まず本人又は家族自身に方向性を決めてもらう。その中で、ホーム側は安易に結果を出さず本人の可能性を探り、今何が必要かを見極め、自立支援できるよう助言している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人と家族が話し合いを十分にもらった上で、自宅等を訪問し、落ち着いた雰囲気での話し合い、職員が顔馴染みの関係になるよう努めている。又、生活の様子など情報収集を行い、他の入居者との関わりの可能性を探り、面会の頻度等、家族と相談している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者と職員がグループホームでの暮らし、生きたかを一緒に考え、学び、支え合い、お互い苦楽を共にしながら信頼関係を大切に支援している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者と家族の繋がりを一番に考え、家族、職員が共に入居者の相互の精神的な支えとなるよう、定期的な連絡や行事の参加、面会等を促し、関係作りに努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族と本人の生活歴、関係性をしっかりと理解、把握した上で好きな時に本人が直接連絡をとったり、家族と一緒に外出する機会をつくる。又居室で一緒に過ごす等支援に努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人、ご親戚の方の面会は自由であり、心地よい時を過ごしていただくよう努めている。又、家族に了解を得て、馴染みの人との連絡や職員付添いで出かける等行っている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	遠くから見守ったり時には両者の間に入り問題解決に努めたり状況をみながら、入居者個々を尊重し、孤立せず良い関係が保てるよう支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後の不安や疑問に対して、継続的に電話で助言等を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーション等で本人の習慣や生活を把握し、思いに近づくよう支援を行っている。思いや意向を言えない方の希望も情報収集と日々の観察により、カンファレンスで話し合い汲み取れるよう努めている。職員はやって出来ない事はないという意識を持つようになっている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、又各関係機関から情報収集を行い、これまでの暮らしの把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の観察、ケース記録等些細な変化も申し送り、現状から経過、結果に至るまで把握に努めている。又、チェック表にて出来る事の発見に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	3～6ヵ月で計画書を見直し、計画作成担当者を中心に、申し送り、カンファレンス等の会議や各医療機関からの情報を基に、家族と入居者の希望を取り入れた介護計画の作成に努めている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のモニタリングや状態変化に応じて計画の再検討を行う。又本人、家族から要望があった時は、随時見直しを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や申し送り、個別のカンファレンス、職員会議にて、情報の共有、問題の抽出、経過、結果を話し合い、介護計画に反映している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	管理者、職員が柔軟な考えを持ち細かな対応ができるよう取り組み、又、医療連携体制はやっていないが、内科・歯科往診医師、看護師訪問を最大限活かして、重度化していく入居者の支援をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議を活かして、町内会や民生委員の方と連携し、地域でのイベント参加や消防訓練を行っている。又、定期的に地域のボランティアの方に慰問に来ていただき、地域で安心して暮らせるよう支援している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他施設の相談員と話し合ったり、地域包括の主任ケアマネに運営推進会議に参加してもらおう等、協力関係を築いている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議を活かした、話し合い、協働を行っている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に説明、同意を得てホームの協力医療機関を利用している。希望があれば他医院にかかる等柔軟に対応し、適切に希望の医療を受けられる形をとっている。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	接遇、言葉使いについては十分に配慮し、入居者を常に尊重(敬う)する介護を心掛けている。職員は個人情報の漏洩誓約書にサインし、個人情報保護法の規約に則り、取り扱いには細心の注意を払い、常に意識するよう指導している。又、個人ファイルは鍵付きの箱に入れ管理している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	傾聴する事を基本とし、一人ひとりに合わせて、ゆっくり理解しやすい言葉で話しやすい環境を作る。表情や様子をよく観察し、心情を汲み取り、自尊心を傷つける事がないよう助言や職員と一緒に行動することで豊かな生活を送れるよう支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの1日のリズム、ペースをフロア一担当者が密に接し、職員間で連携をとり把握した上で、本人の思いや希望に出来る限り沿った支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	訪問理美容を利用し、本人の希望に沿った理美容を実施。他店の利用の希望があれば、家族等の付添いにより柔軟に対応する。衣類についても、その都度入居者の好みにより支援している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配食サービスを利用し、メニューについては業者が行っているが、調理専門の職員等により、利用者の好みに合うようアレンジしている。盛り付け、片付けが出来る方は職員と一緒にするよう取り組んでいる。	○ 季節感のある食事を多く使い、手作りする機会を少し増やしていきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物、たばこは希望に沿った形で提供している。おやつは手作りも多く取り入れ、入居者にも参加してもらう。個人の嗜好はヒヤリングを常に行い、買い物に職員と一緒に出かける等して購入するよう努めている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄管理表を用い、一人ひとりの排泄パターンの把握に努め、不快な思い、恥ずかしい思いをしないよう可能な限り、自立に向けた見守りを行っている。障害等がある場合は、主治医と連携、医療機関での受診を行い、オムツの使用に関しても、夜間のみにする等個別に対応している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日、時間帯は決まっているが、本人の希望や体調にて曜日等を変更して柔軟に対応し、本人のペースで気持ちよく入浴してもらえるよう努めている。又、入浴が困難な場合は、家族と連携を図る等して支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	体操、散歩などのレクリエーションを提供し、生活リズムを整え安眠に繋がるように支援している。又、一人ひとりのその日の希望や体調を考慮して、空調を調節する等、個別にゆっくり寛げるよう支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	出来る事の発見に努め、家事手伝い、買い物、レクリエーション等個別に提供し、出来ない事は本人の負担にならないように配慮し、支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金に対する本人の思いを聞き、家族と相談しながら可能な方は自己にて管理をしてもらい買い物等を楽しんでもらう。管理出来ない方は、必要に応じて施設管理を行う。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの前が公園という事もあり、日課として毎日の外出を目標とし買い物や散歩を支援している。又、3ユニットの特徴を活かして、他の階で寛いだり、他の入居者と交流するなど、自由にEVで行き帰る事が出来る。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年2回(春、秋)行楽を実施し、家族にも参加してもらおう機会を作っている。希望等があればその都度、車でショッピングセンターに出かけたりもしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所にて、随時本人が自ら電話が出来るよう支援している。年賀状を作成し家族に送っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	特に面会規制をしておらず、少しでもホームに足を運んでもらえるよう自宅のような環境と温かい職員の対応を心掛けている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が身体拘束を周知し、見守りを十分に行いリスクについて話し合い、安全確保している。身体拘束と思われる行為及び行動などを妨げる行為は行わないよう努めている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	必要最低限のリスクに対する制限以外は自由に行動できるよう環境整備している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	24時間体制で入居者の安全確認、プライバシーに配慮した訪室を行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁等刃物は原則持込み禁止だが、日常生活で必要な物においては、個々の状態を考慮し、ホームの物を使用したり、持って置く事も可能である。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	随時各階カンファレンスを行い、防止策を検討し、申し送り等で全職員に周知するよう努めている。又、報告書にて再発防止に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	介護職の救急時対応の講習会に参加し、内部研修会にて周知すると共に、ホームの緊急時マニュアルにて職員全員に周知徹底している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署指導による避難・消火訓練を実施している。運営推進会議にて、地域の方に有事の際協力してもらえるよう働きかけている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	契約時や、現状のリスクに対するケアの方向性、対応方法を随時報告し、早期に裁量の解決方法を行い、家族の理解、了承を得ている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタル測定にて体調管理を行い、異変等がみられれば継続して要観察を行い、申し送りにて全職員に情報の共有の徹底に努めている。又、異変があれば直ぐに家族へ連絡し、早目に医療機関に受診している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	居宅療養管理指導等の指導の内容や個人ファイルに処方箋を添付し、薬の内容に対して理解を深め服薬支援に努めている。又、疑問等があれば、医師、薬剤師に随時聞き取りを行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	一人ひとりの便秘の原因や認知症状に対する影響を考え、医師に相談している。又、日課としてラジオ体操や散歩に出かけるようにし、果物や水分も多くとるように努めている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアや歯科往診にて、口腔内及び義歯の衛生チェック、掃除を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材、栄養バランスは栄養士が管理する。又、健康管理表や介護記録での量や残食物の把握、血液検査の結果や体重増減により、提供の量、方法を検討、工夫し個別の支援を行っている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	年1回インフルエンザ予防接種を実施している。日々の業務により、拭き掃除など感染の予防を行っている。マニュアルにより、実際起こった時の対応方法を周知徹底している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	配食サービスにて、栄養士が食材の衛生管理を徹底しており、現場でも賞味期限や保存方法の徹底、決められた消毒殺菌を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関の花壇を整備したり、ホーム前の道路周辺を掃き掃除する等、明るくきれいにしよう心掛けている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各場所を明るく、広々とした空間を保ち、入居者の方が作った飾りを貼る等、季節を感じてもらえるよう努めている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子を置き、入居者同士が談話し寛いだり、独りになれる空間もあり、各々が思い思いに過ごす事が出来る。又、喫煙所では、職員と一緒に寛ぐ事もある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人(家族)に、使い慣れたものや思い入れのある物を持ってきてもらい、少しでも住み慣れた家と同じ環境に近づくよう配慮している。</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>起床時の空気の入替え等、外の暑さや寒さを感じる事も大切にしている。リビングは職員が一定の温度に調節するが、各々が衣類にて調節する。夜間の室温は特に注意して調節し、自分で出来る方は本人に任せている。</p>		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>廊下の手すりの設置やリビングの間取りの工夫、各居室も危険のないよう環境整備を行っている。</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>目に触るもの、必要のない物は出来る限り片付け、衣装ケース等はテプラを貼って中身が分りやすくし、不安にならないよう配慮している。</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>花壇や菜園、洗濯干し場があり、1人ひとりが家事などで役割を持てるよう支援している。</p>		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
		<input type="radio"/>	③たまにある
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/>	②家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/>	③家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、活き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

個々の生活ペースに合わせ無理強いをせず、入居者の思いや希望に沿い支援している。